

数少ない女性現場監督

竣工祝う一体感「たまらない」

会社の理解に感謝!

塚尾 香澄 さん

KASUMI TSUKAO #45
株式会社工藤組
建築部技術者



DATA

七戸町(旧天間林村)出身。中央工学校女子建築設計科卒業後、1995年4月に株式会社工藤組入社。その後3人の子どもを出産し、仕事と育児を両立しながら1級建築施工管理技士、2級建築士、監理技術者の資格を取得。現在、2021年1月までの工期で宮農大学校管理研修棟改修の現場監督を担当。趣味はお菓子作り。

株式会社 工藤組

青森県上北郡七戸町字後平150-62
tel.0176-68-3111
<http://www.kudogumi.co.jp/>



簿記1級合格も 銀行員から進路変更

建築現場で働く女性がまだ珍しかった時代、20歳そこそこで現場監督を経験し、その道を切り開いてきました。全国的にも数少ない女性1級建築施工管理技士、株式会社工藤組(七戸町、番場宗幸社長)の塚尾香澄さんです。

七戸町ふれあいセンターの新築に始まり、現在手掛ける宮農大学校管理研修棟改修に至るまで、地元を中心に数多くの建築現場で監督として技術と経験を積み重ねてきました。

「発注者や設計事務所、職人などによって要求はさまざま。何度も図面変更になり、そのたびに工程を組み直したこともあります」と、現場監督の難しさを語る塚尾さん。

それだけに、建物が竣工したときの達成感もひとしおです。「ひとつのものをみんなで作り上げ、苦労を共にしてきた人達と一緒に建物を引き渡す、あの一体感がたまらない」

計算が好きで中学時代は銀行員を目指していた塚尾さん。ところが高校3年のとき、父親の猛反対に遭いながら、建設系専門学校である中央工学校(東京都北区)への進学を目指します。

行員の仕事に役立てようと、合格率1ヶ台の難関「日商簿記検定1級試験」に挑戦し見事合格したその矢先でした。

きっかけは、友人の親が建設関係の仕事をしていたこと。「自宅が古い家だったから、新しいお家に憧れを抱くようになった」と、当時の心境を明かします。

「カッコいい！」建築に憧れ

その友人宅の前を通るたび「いつか自分の家を建てたい。『設計士、という名前の響きがかっこいい』と、しだいに夢が膨らんでいったそうです。

所属する剣道部の顧問に相談すると、知り合いだという東京の建設会社を紹介されました。昼間はその会社で働くことを条件に、授業料の捻出が理由で反対していた父親を説得することに成功。昼は社員として、夜は学生として、東京で2年間、がむしゃらに建築の知識を学びました。

「東京のひとり暮らしはさみしいけど、夜に学校に行くと同じ建築の趣味を持つ女性がたくさんいて、そこは夢や希望に満ちあふれていました」と、皆勤賞だった専門学校時代を楽しそうに振り返ります。卒業とともに、地元に戻って現在の会社に入社しました。

塚尾さんが担当する宮農大学校管理研修棟改修の現場は準備段階のため、この日は普通高校出身ながら「現場監督が夢」という新人、沼端雅樹さんが担当している天間林児童センターの建築現場に同行しました。

塚尾さんは、職人と打ち合わせをした後、搬入された材料の数や取り付ける筋交いの位置などを確認。検査を通すための写真や書類にも目を通し、屋根に上れば作業中の職人に「落ちないでね」と注意を呼びかけます。

同社には、塚尾さんに続く新人の女性技術者も次々入社しています。工業高校出身で建築部3年目の和田歩美さんと、普通高校出身で土木部2年目の川崎美紅さん。ともに21歳。「二人とも優秀だし勉強熱心で、上司からもかわいがられています。途中で挫折する人もいるので、このままぶれないで、まっすぐに育ってほしい」



それぞれ強度が違う金物など材料がそろっていることを確認

将来の夢「自分の家を建てたい」

人見知りを自称する彼女ですが、「誰に対してもコミュニケーションをとる能力が非常に高い」(外井新一総務部長)と周囲の評価は上々。人と話すときに心掛けているという笑顔、に、親しみやすい人柄がにじみ出ています。

1995年の入社後すぐに結婚し、翌年から二つ違いずつ3人の子どもを出産した塚尾さん。

いまでもこそ当たり前前の産休ですが、男性中心の建設業界では取りにくい時代がありました。「仕事を辞めるべきか悩む中、前例がなかった産休を認めてくれた」と、会社の理解に感謝しています。

仕事と育児のかたわら、1級建築施工管理技士や2級建築士といった国家資格を取得するなど、会社側もキャリアアップを支援してきました。



新人研修のため立ち寄った建設中の天間林児童センターの前で

実は、設計部門を持たない同社で2級建築士の資格を取ったのは、あくまでも「心配していた親を安心させるため」で、取得後しばらくは会社は無申告だったそう。

でも「いつか自分の家を建てたい」という高校時代の夢を、まだ諦めてはいません。「子どもたちが就職した上で気持ちの余裕ができれば、しっかり勉強して一級建築士にも挑戦したい」

ひとことメッセージ

株式会社 工藤組 常務取締役総務部長
外井 新一

塚尾さんは、建築関係の専門学校を卒業してすぐに当社に就職しました。入社当時、女性の建築の現場監督はこの地域にはいなかったと記憶しています。入社当時から先輩技術者について建築現場を担当しました。2013年には1級建築施工管理技士の資格を取得し、現在は一級建築士の資格取得を目指して勉強しているようです。とても明るい性格で、現場で下請業者の監督や職人とのコミュニケーションを取るのがとても上手く、担当したどの現場においてもとても良い雰囲気現場になっています。また、当社には若い女性技術者が建築部と土木部に配属になっています。塚尾さんは、彼女たちに対して技術指導や様々な相談にも親身になって対応し、一人前の技術者に育ててくれると思います。当社は、女性技術者を目指す人を応援しています。いつでも職場見学を受け入れますので興味のある方はどうぞ!

